



「鼓膜」が破れるって、どんなことなの

「鼓膜」は、音を聞くための大切な器官

「鼓膜」が破れると、わたしたちは、音を聞くことができなくなります。

ふつう、わたしたちが聞いている音は、音を出しているもののふるえが、空気などを伝わって、耳から入ってきて「鼓膜」をふるわせ、それが耳のおくの神経に伝えられ、脳に伝えられて、聞こえていることが、音として感じられるのです。

ですから、「鼓膜」は、音を聞くための大切な器官で、「鼓膜」が破れると、音は聞こえなくなるのです。

耳で音が聞こえるしくみは

耳は、外のほうから外耳・中耳・内耳という、3つの部分に分けられ、「鼓膜」は外耳と中耳の間にあります。耳の入り口から鼓膜までを外耳、鼓膜のおくを中耳とよんでいます。そして、中耳のさらにおくには、中に液体の入った、うずを巻いた管があり、これが内耳です。内耳は、カタツムリの殻そっくりの形をしています。

小鳥が「ピピピ」と鳴くと、その声のふるえが、空気を伝わって耳へ入り、鼓膜をふるわせます。鼓膜のふるえは中耳から内耳に伝わって、内耳の中の液体をふるわせます。この液体のふるえが、内耳の感覚細胞というものに伝わり、そこから神経に伝えられて、脳に信号が送られ、小鳥の声が「ピピピ」と聞こえたと感じるのです。（監修・保志 宏）

